

笑曰はお手紙ありがとう。四月初旬より今日まで五〇の枚  
ほど書き、きりくまいで、やつとはつとしたところで  
す。返事がおくれ申しわけありません。

貴君は石の壁のみに立ちすくみ、ある大転機にさしか  
かっているのですが、もはやふちやぶる日は早い。その血  
みどろの陣痛のうめきのなかに、おぼろげな光があら  
さけじめているのを、ほくけみしています。かんはつて  
下さい。

二十三日、人のまえにはお逢いすること、オーケーです。  
八日は植屋宅なので、お逢いできると思いますが、  
二十三日までには白井高二氏邸にふ一緒したいと考え  
ております。明朝から青葉と山をみに、信州へ逃げます。